



自分の言葉で伝えること～参観日の子どもの発表から～

2月20日に令和7年度最終の参観日を行いました。1年生、2年生、6年生は自分の成長に関することを、3年生、4年生、5年生は生き生きタイム(総合的な学習の時間)で学習したことを発表する計画をし、ひまわり学級は、作品づくりを通じた交流を計画しました。多くの保護者様が参観してくださいました。ありがとうございました。



ひまわり学級

1年生

2年生

3年生

4年生

5年生

6年生

さて、子どもたちの学習の様子を見ていると、2つのパターンがありました。ひとつは作文にしてそれを伝える場合(暗記して話すことを含む)、もうひとつは作文にせず具体物を用いながら伝える場合(タブレットを使った発表シートを含む)です。どちらのプレゼンテーションにも利点があります。前者は、自分の体験や感情を分かりやすく整理し、聞き手の心に響く構成を考える機会になります。後者は、具体物を用いながら順序立てて説明する力を身に付ける機会になります。聞き手との対話が鍵を握るため、話し手には場に応じて回答する力も求められます。いずれの方法も、国語で学習した「構成」、「つなぎ言葉」、「こそあど言葉」などを活用した準備が必要で、今回の子どもの発表には、それができていました。

これからの時代は、「自分の言葉で伝えること」を求められます。そのため、話し手は、聞き手が理解しやすいようにプレゼン方法を選択し表現するトレーニングが必要です。そのことを考えると、すでに聞き手を知っている参観日のような安心できる場での経験は貴重です。今後も、学級内、そして学校内での経験を経て、校外でも「自分の言葉で伝えること」を経験できればと考えます。今回の参観日は、子どもの「自分の言葉で伝えること」への期待が広がりました。令和8年度も、多くの保護者様や地域の皆様に参観していただける学習環境に努めて参ります。

【お知らせ】 4年生が JR 竜野駅交流施設で学習発表の予定

令和8年3月6日(金)10時30分から、新設された JR 竜野駅交流施設で、生き生きタイム(総合的な学習)で取り組んだ環境学習の成果を発表します。この学習は、自然農業クラブ(代表 生駒様)の皆様が地域の先生としてサポートして下さった探究的な学習です。座席には限りがありますが、多くの皆様にご参加いただき、子どもたちの発表をお聞きくだされば幸いです。当日は、無農薬栽培した大根の葉を用いた「大根あめ」を配布する予定です。この「大根あめ」については、今昔庵様のお力をお借りしました。ありがとうございました。

第23回子どもアイデアコンテスト「団体賞」受賞

第23回子どもアイデアコンテスト(Honda主催)は、「未来にあったらいいと思うアイデアをカタチにするコンテスト」です。9月に全校の子どもたちの作品を応募したところ、団体賞に選ばれました。2月20日、Honda Cars姫路中央代表取締役社長様が来校され、副賞の「Honda製発電機『エネポ』」を届けてくださいました。代表で6年生の子どもたち2名と担任が受け取りました。カセットボンベで電気を作るこの発電機を有効活用したいと思います。



運動場に雪が! (2月9日)

前日の夜からの雪によって、運動場に雪が積もりました。さっそく、子どもたちは雪遊びを楽しみました。少々の寒さはへっちゃらの子どもたち。雪合戦に、雪だるまづくりにと、それぞれが楽しめることを見つけて遊びました。



写真はどんぐり広場の様子です。誰も踏み入っていない場所だと、雪を踏んだ時の「ザックザク」の音と感触を楽しむこともできました。子どもたちにとって冬とふれ合い、親しむ機会になりました。

クラブ活動見学(2月12日)

3年生がクラブ活動の様子を見学しました。それぞれのクラブでは、代表の子どもが活動内容を分かりやすく説明できていました。3年生の子どもたちからの「4月から何クラブにしようかな」と期待が広がる声を、たくさん耳にすることができました。



神部リレーカーニバル(2月13、17日)



今年はどのチームも、1年生から6年生で構成されていました。両日ともに天気にも恵まれ、走っている子どもも応援している子どもも楽しい時間を過ごすことができました。大変盛り上がったリレーカーニバルでした。

正条壘堤のムクノキ感謝(いやび)祭(2月16日)

「正条の渡し」付近にあったムクノキが倒木の危険性があることから伐採されました。左写真は16日に行われた「感謝(いやび)祭」の様子です。次の日、伐採された幹をみると、朽ちた木を栄養にして成長する新たな木々の存在に気づきました(右写真)。あらためて巨木の命について考える機会となりました。



表彰 おめでとうございます

新しいタブレットが一人ずつ再配付されて!

2月はインフルエンザの感染者数が増え、2つの学級で学級閉鎖の措置をとりました。

ただ、1月に新しいタブレットが子ども一人あたり1台ずつ配付されたことで、学級閉鎖期間でもオンライン授業(同時双方向学習)が可能になりました。実際に行った方法を紹介합니다。ひとつは協働学習アプリを使用するパターンです。準備するものはWebカメラ、タブレット2台、大型モニターです。Webカメラで板書(下の写真)を撮影し配信します。子どもたちの様子は大型モニターで確認し、2台目のタブレットでクラウド上にある協働学習アプリ画面を確認できるようにしておく、子どもたちの記述をリアルタイムで確認でき、授業がスムーズになります。

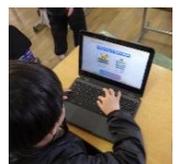


もうひとつは、協働学習アプリを用いないパターンです。この場合は、右の写真のように、電子黒板のみで行うことができます。大切なことは、子どもたちの学びが止まってしまうことです。



左の写真は、今から29年前の平成9年2月に行った当時の4年生のテレビ会議(山形県の学校との遠隔地共同学習)の様子です。今のここにこルーム(北館1階西側の教室)が当時のテレビ会議室でした。研究発表会当日のこの日は朝からの積雪で学校も2時間遅れて始まったことを思い出します。神部小の子どもの「雪かきはありますか」の質問に、山形県の学校からは「雪かきは無いですよ。雪ほりだよ」といった返答でした。当時の神部小の子は、「えっ、雪ほり?」とのつぶやきを示し、私が豆腐を使って、なぜ雪ほりなのかの補助説明すると、「そうか。雪が多すぎて雪かきにはならないんだ」と納得したことが鮮明に思い出されます。全国に先駆けた秋田大学と三菱のサポートによる研究授業はその後進み、平成15年度にはシンガポールとの国際交流授業まで発展しました。

保護者様が子どもの頃(29年前)は一部の学校でしかできなかったことが、今では日本中どここの学校でもできるようになりました。さらに生成AIをはじめ、テクノロジーは格段に進化しています。右の写真は2年生の子のプログラミングの様子です(2月10日実施)。市教委の先生が簡単に説明すると、子どもたちはどんどん作品づくりをしていました。左の写真は4年生がフェイク写真の見分け方について学習している様子です(1月21日実施)。時代の変化



とともに求められる力も変わっています。そこをしっかりと見定め、これからも与えられたICT機器を有効活用しながら学習活動を進めたいと思います。